

コーチ就任1年目にして思うこと

私の次男が小学生1年生から志津FCにお世話になり早4年目になります。一父兄であった自分はまったくのサッカー未経験者でしたが、子供のサッカーに引き込まれ昨年度からコーチとして共に汗を流させて頂いています。

子供たちは良いにつけ悪いにつけ必ず親の期待を裏切るものです。ただ、「楽しい」と感じる場面が多い子供ほど、いち早く良い意味での「裏切り」の変化を見せてくれます。私もここ一年ある学年の子供たちを担当していて、いつの間にか急に変わった子供たちを数名にする機会がありました。どう変わったの？これはなかなか言葉に言い表せませんが、変わったのは確かです。たぶん、サッカーの場面だけでなく生活においても同様でしょうから、私以上にお子さんの成長をご父兄の方々がよく感じてらっしゃると思います。

さて、志津FCの教育方針は、

考えるサッカー

みんなと仲良く

自信と責任を持つ

の3つです。非常に当たり前のことですが、サッカーをやる上で、または子供たちがこれから成長する上で非常に重要なポイントだと思います。特に私は の項目を大切に指導に当たりたいと考えています。 ができれば、 、 は必然的に成立することでしょう。

「考えるサッカー」これは何でしょうか？人は「考える動物」とよく言われますが、考えるには失敗は必要です。

- ・ 自分はこうありたい、
- ・ そこでこうやったけど失敗してしまった、
- ・ じゃ、こうしたらどうなるんだろう？

サッカーだけでなく人生そのものがこの繰り返しなのではないでしょうか？多分、良い選手はこの繰り返しを自分の中で進められる人を言うのでしょうか。自分で気づき、自分で方策・方針を考え、自分で結果を出す、これが大切なのではないのでしょうか？

たとえばゲーム中に「ボールを横に出せ」。私を含め各コーチから指示が出ます。戦術としては重要な話です。しかし、単にボールを横に出すことが重要ではなく、機を見て判断することが重要です。サッカーは得点するゲームである以上ゴールを目指すのは当然です。ゴールを目指した縦のプレーの中に横のプレーが加わり、始めてサッカーの醍醐味が出ると思います。まずは縦にゴールを目指す。私はこのことを低学年の時代には大切にしたいと思います。縦への攻撃で失敗し、始めて子供たちが気づき横の友達を見つけてパスを出す。理想かもしれませんが、子供たちが気づき、始めて「考えるサッカー」ができたとい

えるのではないのでしょうか？

一流の人はどういった人なのでしょう？Jリーグで活躍しているプレーヤーの中でも、幼少の時代から脚光を浴びた選手は数少ないのが現状です。今、トップクラスの選手は、自分で考える訓練を繰り返しできたプレーヤーのみではないのでしょうか？

志津FCというサッカーを通じた活動の中で、是非「考えるサッカー」を進めていきましょう。考えること、感じる事が勝敗以上に子供たちには大切です。最後に、子供たちは失敗、成功の連続です。失敗を失敗とせず、次のステップにつながる応援とアドバイスがご父兄と我々コーチの大きな役割と感じます。